

令和4年度第2回森町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進委員会 議事録

日 時 令和5年3月24日(金) 10:00～11:00

場 所 森町公民館 1階大会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

川村企画振興課長より挨拶

2. 委員長挨拶

遠藤委員長より挨拶

3. 議 事

① 第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業調書について

第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載事業調書を用いて、事務局から新事業の概要と既存事業の実績及び今後の方向性について説明。

～委員意見～

遠藤委員長

先に私から、3つある新規事業のうち「新規就農者等の定着促進に向けた支援事業」について、これまでの新規就農者はどのような状況か。

事務局

今までは、後継者として等の受入は行ってきたが、0から農業を始める方に対しての体制が整っておらず、受入は進んでいなかった。町と地域が連携しての受入実績については、無かったと思う。

遠藤委員長

私からは以上である。鈴木委員に聞きたいのだが、「水産資源安定化対策事業」の実績について、新たに6名加入したのか。

鈴木委員

後継者ではあるが、新規組合員という形で加入している。

遠藤委員長

毎年何人かずつは増えているのか。

鈴木委員

その年にもよるが、毎年0～3名程度であるので、今年度はある程度増えている。

菊池委員

「もりまちPR大作戦！！」事業について、取り組みに「地域ブランドPR」200名とあり、200名にパンフレットを配布したとのことだが、それだけで実績に200人の関係人口追加は無理があると思う。その辺りの数字捉え方について確認したいのが1点、もう1点「UIJターンの新規就業支援事業」について、マッチングサイトに登録している事業者の実績があればお聞きしたい。

事務局

関係人口の増加について、PRの際にはもう少し人は来ており、その中でパンフレットを渡す際に森町のこと等、会話をした方が最低200人はいるということである。桜まつりの話をしたり、パンフレットと一緒に地域ブランド登録商品を配布して、後から振り返れるような形のPRにしていたことも含めてご理解いただきたい。

また、「UIJターンの新規就業支援事業」について、現状2件の町内事業者が登録しているが、マッチングサイトを経由しての実績は0件である。以前にも菊池委員に本事業の実績について意見は伺っていて、担当課にもそのことは伝えており、まずは4件登録事業者を増やすということで準備をしている状況である。今後も継続して協議、発展していけるようにする。

菊池委員

確認だが、パンフレットを手渡したのが200人ということで、パンフレットはそれより多くあるのか。

事務局

こちらは今年度に5,000部作成し、そのうちの数百枚を持っていったが、一緒に配布した地域ブランド登録商品については200個持っていった。

菊池委員

了解した。

遠藤委員長

金澤委員に聞きたいのだが、「子育て応援プロジェクト」の天板交換授業について実際に行った様子はどうか。

金澤委員

森小学校の生徒の机はハルキさんの協力も得て道南スギを使ったものにしたが、道南スギの良さはあるものの、多少柔らかいという弱点はある。その部分については、1年に1回の交換、また外したものは研磨して次の交換の際に使用するという仕組みにした。昨年計3回の交換で全ての天板の交換が終了し、森高校生にも手伝っていただいた。今まではあまりなかったが教育活動の中で人が集まって活動できたこと、また道南スギを使用したものが自分たちの身近で使われるという体験をさせられたことが良い経験となったと思う。

佐藤委員

「炭ずみまで地域材を使おう！もりだくさんプロジェクト」事業について、利用者は地元の方が多いのか。また、周辺市町村に事業のPRはしているのか。

事務局

本事業については、補助要件に定住される方と定めている。数年前には対象を町内に本社がある事業者まで広げ、そこから実績はさらに増えた。また、町ホームページで周知をしており、町外の方が町内に会社を建てる場合でも活用が可能であると思う。

遠藤委員長

町内のみの支援ということだが、現状ではそれが限界ということか。

事務局

実績は既に100%を超えているが、原課としては、さらには対象を広げ、町内に営業所がある事業者も対象にするかどうか検討していきたいとのことである。

遠藤委員長

道南木材を使った家を建てたいというニーズは札幌圏等でもあると思うので、そちらまで広げると様々に課題があると思うが、上手く考えてほしい。他に意見はあるか。

佐々木委員

「みんなでつくる地域公共交通プロジェクト」について、私は地域公共交通会議の委員も務めており、報告のようになるが、来年度から有償運行が開始する。今年度の実証運行は概ね好評であり、利用者も多くいたが、この事業は買い物難民等への福祉施策にもなるとの意見も出ていた。高齢者にとって外に出て買い物することは生きがいであると思うので、今後も皆さんの利便性を高めるため、色々な意見を聞きながら運行していきたいと思う。

遠藤委員長

私は江別市の公共交通協議会の委員も務めているが、停留所についての意見が多いのが印象に残る。始めに検討した場所とは違う場所の方がニーズが多かったりするので、しっかりヒアリング等行ってほしい。

丹崎委員

「水産資源安定化対策事業」について、取り組みに対する評価指標が新規組合員の人数というのは少し違うのではと思う。また、漁業の担い手について、自分たちで人員を雇い、育てるとするのは金銭的に難しいと思うので、補助金等による支援を検討した方がいいのではないか。

最後に「森高校との連携による若者定住促進事業」について、素敵な事業によって入学者数を増やすとのことだが、その後に就業に繋がる部分での問題が出てくると思う。雇用したい企業があっても賃金が合わないといったミスマッチが解消できないと定住には繋がらないと思うので、一緒に考えていきたい。

事務局

事業内容と評価の関連性について、ご指摘のとおりであるので、指標の作り方については原課と相談していく。また、支援に関する意見についても原課の方に働きかけていきたい。

遠藤委員長

岩島委員は今年度のインターンシップに関わっていただいていたが、来年度についての希望や考え等はあるか。

岩島委員

昨年度は大学生の皆さんと三業まつり等の事業に参加させていただきありがとうございました。また、農林課にも木育の関係で協力いただき、子供たちの良い経験になったと思う。「森高校との連携による若者定着促進事業」について、森町は様々な大学と連携しているということで、そちらにも繋がるような取り組みがあれば、高校の魅力も増すと思う。

「新規就農者等の定着促進に向けた支援事業」について、前々から思っていたことではあるが、農業に限らず継承者がおらず廃業とする方が多い。そのような方々と新規就農者を結び付け、事業継承のサポートができるような仕組みづくりが重要だと感じている。

最後に一つ質問だが、地域おこし協力隊や大学生にデザイン系の方が多い印象があるが、何か狙いはあるのか。

事務局

まず大学連携について、役場がただインターンシップを受け入れて行うだけでは、狭い視野になってしまうこと、また継続性を考慮したときに地域との繋がりは重要なことだと思うので、来年度についてもご協力をお願いしたいと思う。森高校との繋がりに関しても、積極的に検討していきたい。

新規就農については、こちらとしてもサポート体制が必要であると感じているので、来年度以降のスキーム作成の際に働きかけて、良い施策にしていければと思う。

最後の協力隊の質問について、企画振興課としては特段デザイン系に絞った募集は行っておらず、要因については先輩隊員との繋がりが大きいと思う。山本隊員がデザイン系の学校を卒業しており、菊地隊員と佐々木隊員が同校に通っていたなかで、その活躍を見て森町へ来たという流れになっており、今年度来た原田隊員に関しては日体大卒で柔道整復師の資格を持った方という新しいジャンルであるので、来年度以降も幅広い人材を探っていこうと思う。

遠藤委員長

私からも伺いたいのだが、インターンシップ等で関わった青年会議所の関連事業者の状況はどうか。自分たちの団体で抱えている問題等を学生たちに提示すれば、そこから若い方の意見ももらえるかもしれない。

岩島委員

青年会議所は基本的に40歳以下の方で構成されており、学生たちとまだ年齢が近いということもあるので、今後も関わりながらやっていければいいと考えている。

② 第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

新旧対照表及び総合戦略改定案について説明。

③ 今後のスケジュールについて

令和5年度第1回の開催について、開催時期は令和5年10月を予定。

4. その他

岡嶋町長

皆様お忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。以前にもお話したが、本戦略に搭載されている事業の事業費の積み上げが、ほとんど企業版ふるさと納税の集められる金額に近づいてくる。私も以前から様々な会社へ赴き企業版ふるさと納税のお願いをしてきたが、中々難しい。搭載事業をインパクトのあるものとして、その内容に共感いただくためにはまだブラッシュアップの必要があると思うので、皆様からいただいた意見について、私の方からも原課に投げかけていきたいと思うので、引き続きよろしく願いいたします。

5. 閉会